

# 風早の本だより

北条高等学校図書委員会

《名月号》

平成 26 年 9 月 26 日発行

3-4 吉岡 歩  
1-1 越智 友也

熱気をはらんだ風から秋風に変わりつつありますが、みなさんいかがお過ごしですか。秋といえば、食欲の秋・スポーツの秋・芸術の秋とありますが、『読書の秋』を忘れてはいけません。本校図書室にも新刊が続々と入り、皆さんに読まれるのを待っています。是非お気に入りの1冊を見つけに来てください。

<10/27~11/9 は読書週間です>

## 2014年の標語は めくる めぐる 本の世界 です！

10月27日は「文字・活字文化の日」です。この日を初日として11月9日までが秋の読書週間です。今年のテーマは上に書いたとおり「めくる めぐる 本の世界」です。ページをめくるときに、みなさん、どんなことを考えていますか。一度手を止めて考えてみるのもいいかもしれません。

今年の目標貸出冊数は、3000冊です。そして現在は、約2000冊です。目標を達成するために皆さん図書館に来てどんどん本を借りてください。

### 新任の先生方のおすすめの本とメッセージ

高井 英朋 先生 (教科：地歴・公民)

#### ① おすすめの本

書名：「伝え方が9割」 著者：佐々木 圭一

なぜ伝え方で結果が変わるのでしょうか？

たとえば、好きな人がいるとします。でもその人は、あなたのことに少しも興味がないとき、何と言ってデートに誘いますか？

「デートしてください」



こうしてみました。あなたのピュアな気持ちそのままですね。これだと断られる確率が高いですね。ですが、コトバ次第で結果を変えることができます。

「驚くほど旨いパスタの店があるのだけど、行かない？」

こうしてみました。相手は行っていいかも、と思う確率がぐんと上がるコトバです。どちらにしても、実は「デートしませんか？」という同じ内容なのです。同じ内容なのに、伝え方で結果が変わってしまう。これは驚くべきことと思うかもしれませんが、あなたは今までの人生で、「伝え方で変わるのでは？」と、うすうす気づいているのではないのでしょうか。

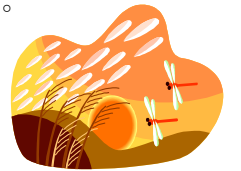
伝え方にはシンプルな技術がありますよ。

#### ② 北条高校生にメッセージ

ツタヤでDVDをレンタルする時に、入り口のBooksコーナーで立ち止まります。本棚に目を通し、気になる本を手にとって、面白そうだなあ~と思ったらそのまま買って帰ります。どんな内容かは、そのときの気分次第です。

コンビニに入ったとき、面白そうな題名を探してみませんか？

『断然モテる200の法則』こんな文字が目に入ってきたらどうしますか。学校・市の図書館にも、ん！と思う本があります。まずは、タイトルを見て、手にとってみませんか。きっとワクワクすることがあると思いますよ。



岩崎 恵女 先生 (教科：数学)

#### ① おすすめの本

書名：「手紙屋 ~僕の就職活動を変えた十通の手紙~」 著者：喜多川 泰

この本の主人公は、就職活動に悩んでいる男子学生です。

「仕事ってどうやって選べば良いんだろう。知名度？ 給与？ 待遇？」と、出口のないトンネルに迷い込んだ気分になって焦っている青年が、「手紙屋」との手紙交換を通して、働くことの意味を見つけていきます。

あなたは どうやって仕事を選びますか？ 人生の3分の1は「仕事をしている時間」です。「どんな人生を築いていきたいのか」を考えるきっかけとして、この本をお勧めします。

『手紙屋 蛍雪編 ~私の受験勉強を変えた十通の手紙~』も、お勧めです。

こちらは、「何のために勉強するんだろう？」「何のために、進学するんだろう？」と、悩む女子高校生の話です。

「大学に行きたいけれど、成績が足りない。」「勉強しなきゃと思うけど、やる気になれない。」そんな彼女が、「手紙屋」とのやり取りを通して見つけていくも

のとは？

どちらの本も、主人公が「手紙」の中に、率直な気持ちや質問を書くと、「手紙屋」が返事をくれるという、「手紙のやり取り」の形です。読み進めやすい一冊なので、ぜひ、手に取ってみてくださいね。（図書室にあります）

## ② 北条高校生にメッセージ

私は小さい頃からよく本を読んでいました。でも、大変残念ながら、高校時代には少ししか読みませんでした。生徒会活動や愛好会活動が楽しくて「読書の時間はない」と考えていたのです。

大学時代から再び本を読み始めて、「どうして、高校時代にもっと本を読んでおかなかったのだろう。」と、何度も感じました。「高校時代にこの本を読んでいたら、違う選択肢があったかも。」「悩んでいたあの時に、この本に出会いたかった。」「あの頃読んでいたら、もっと心が震えただろうに。」等々。

「高校時代に読むからこそ面白い本」という本があります。（上記の2冊もそうです）もしかしたら、皆さんも、「時間がない」と思っているかもしれませんが、時間は、「ない」と決め付けるのではなく、「作る」ものです。ぜひ、色々な本を読んでみてくださいね。

高智 英彰 先生（教科：理科）

## ① おすすめの本

書名：「きみの友だち」 著者：重松 清

嬉しいこと、辛いことがいっぱいあったから、「友だち」の意味がわかった——痛みや喪失を乗り越え、少女たち、少年たちはやがて…。珠玉の長編小説！

内容（「BOOK」データベースより）

わたしは「みんな」を信じない、だからあんたと一緒にいる。足の不自由な恵美ちゃんと病気がちの由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスのだれとも付き合い合わなくなった。学校の人気者、ブンちゃんは、デキる転校生、モトくんのことが何となく面白くない…。優等生にひねた奴。弱虫に八方美人。それぞれの物語がちりばめられた、「友だち」のほんとうの意味を探す連作長編。このテキストは、文庫版に関連付けられています。

著者略歴（「BOOK著者紹介情報」より）

重松 清

1963(昭和38)年岡山県生まれ。出版社勤務を経て執筆活動に入る。'91(平成3)



年、『ビフォア・ラン』でデビュー。'99年『ナイフ』で坪田譲治文学賞を、『エイジ』で山本周五郎賞を受賞。2001(平成13)年、『ビタミンF』で直木賞を受賞。（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

## ② 北条高校生にメッセージ

とりあえず、読む。読めば、わかる。読めば、感じる。読めば、泣ける。

高校の時は朝読も無く、ほとんど読書をしませんでした。最近になり、少し読むようになりました。司馬遼太郎、東野圭吾、石田衣良、重松清・・・など。

好きな作家に出会えることは、素敵なことだと思います。

読書の秋。とりあえず、読んでみましょう。

先生方、ありがとうございました。

（新着図書）